

(仮称) 小柴貯油施設跡地公園の基本計画について

1 市民意見募集の結果について

平成26年5月7日～6月13日にかけて市民意見募集を実施

別紙1

『(仮称) 小柴貯油施設跡地公園基本計画(案)に関する市民意見募集の結果』

2 基本計画の確定について

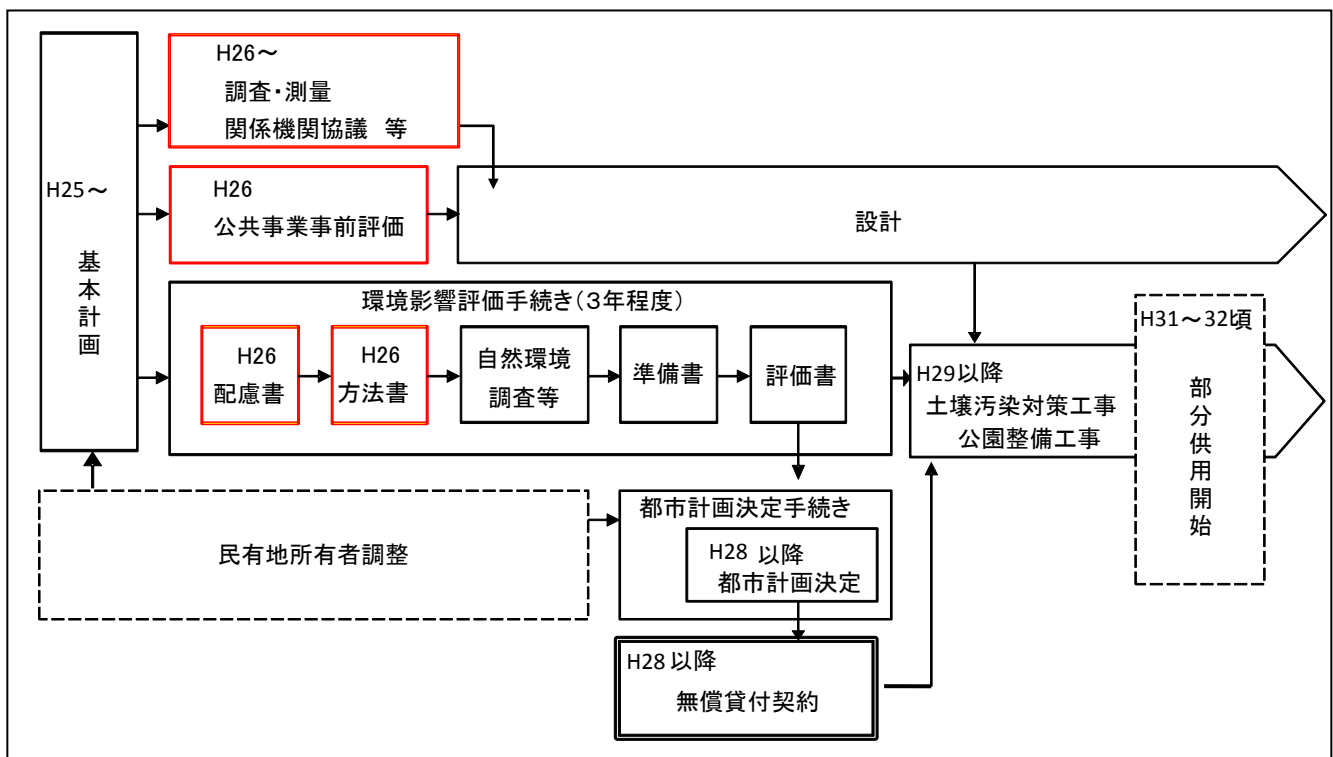
市民意見を踏まえ、基本計画を確定します。

別紙2 『(仮称) 小柴貯油施設跡地公園 基本計画 最終案』

3 報告事項について

- (1) 国道からのアクセス
- (2) 現地見学会
- (3) 柴トンネル
- (4) 地下水モニタリング調査
- その他

4 今後の予定



(仮称) 小柴貯油施設跡地公園基本計画 (案) に関する市民意見募集の結果

1 趣旨

旧小柴貯油施設は、金沢区東部に位置する面積約 53 ヘクタールの米軍基地の跡地です。戦前、旧日本海軍により燃料の貯蔵基地として建設され、戦後は米軍が航空機燃料の備蓄基地として使用していましたが、平成 17 年 12 月に返還されました。

横浜市では、これまで市民の皆様のご意見を伺いながら、都市公園利用を内容とする「小柴貯油施設跡地利用基本計画 (平成 20 年 3 月)」の策定などに取り組むとともに、国と用地の取扱いについて調整を進め、平成 25 年 2 月に国有財産の無償貸付方針が決定されました。

これを受け、「小柴貯油施設跡地利用基本計画」に基づいて「(仮称) 小柴貯油施設跡地公園」の基本計画案をまとめましたので、この案について市民の皆様のご意見を募集したものです。

2 募集方法等

(1) 募集期間

平成 26 年 5 月 7 日 (水) から 6 月 13 日 (金) まで (38 日間)

(2) 募集方法

意見募集の実施については、記者発表を行ったほか、広報よこはま 5 月号、環境創造局ツイッターでお知らせし、以下の方法で募集を行いました。

ア リーフレットのハガキ

リーフレットについては、環境創造局緑地保全推進課、市庁舎 1 階市民情報センター、18 区役所広報相談係及び金沢区内 PR ボックス (地区センター、銀行、鉄道駅など) において配布するとともに、金沢区においては自治会・町内会で回覧していただきました。また、対象地内民有地の土地所有者の方々には、別途配布しました。

イ 環境創造局ホームページ

環境創造局のホームページに市民意見募集のページを設け、インターネット上から回答を受け付けました。

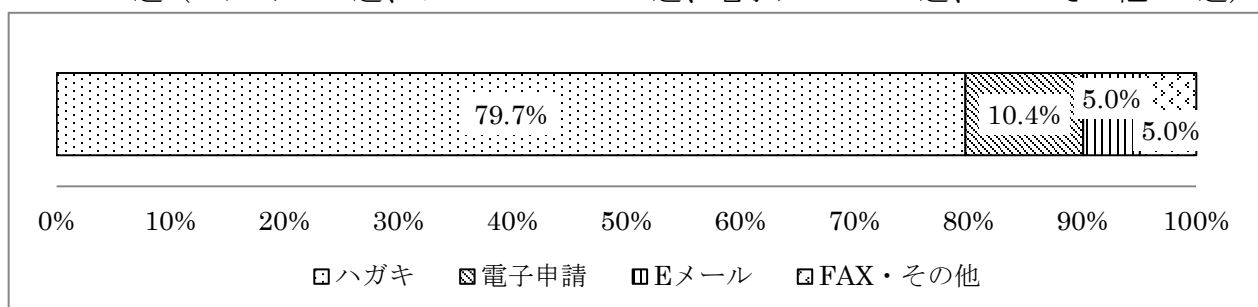
ウ 電子メール

エ ファクス

3 集計結果 (※「無回答等」は、択一式の設問に対して、回答がない、複数回答しているものなどを指します。)

(1) 回答数

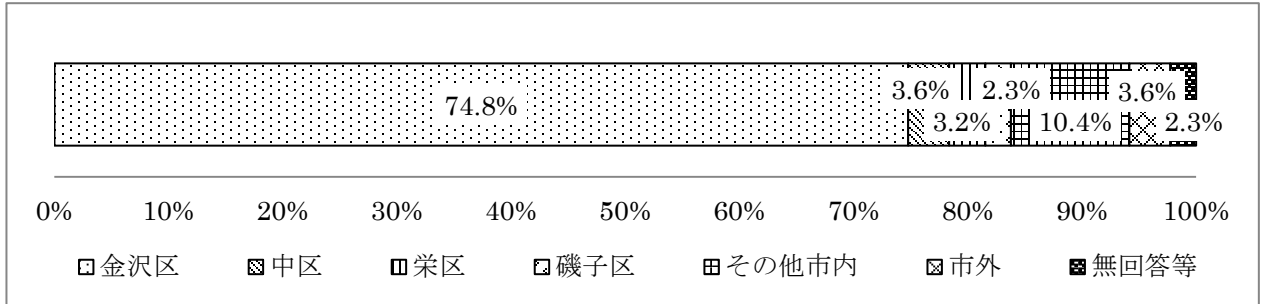
222 通 (ハガキ 177 通、ホームページ 23 通、電子メール 11 通、FAX・その他 11 通)



(2) 回答者属性

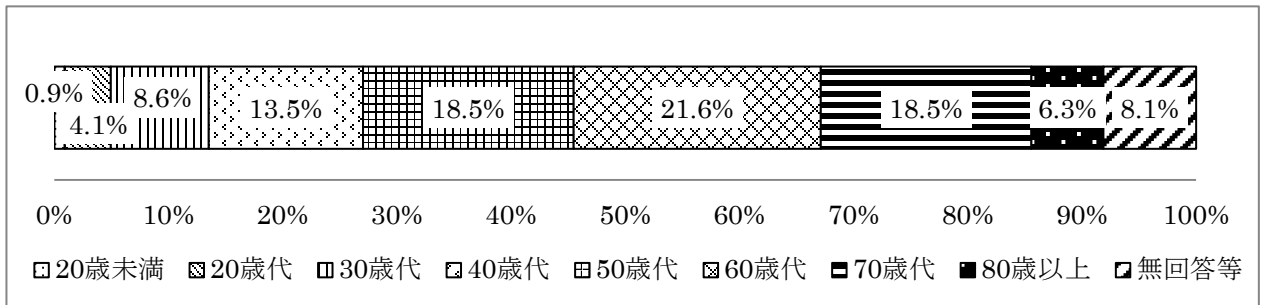
ア 居住地

74.8%が対象地の所在区である金沢区にお住まいの方からの回答となっています。



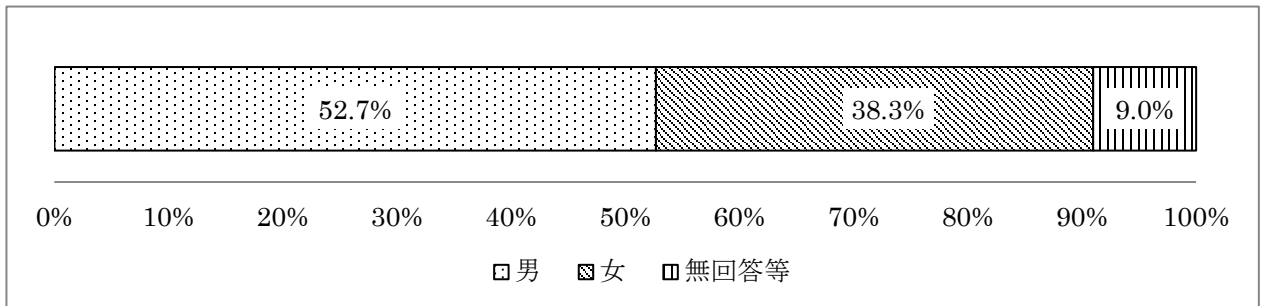
イ 年齢

60歳代の方の割合が21.6%を占め、最も多くなっています。



ウ 性別

男性が52.7%、女性が38.3%となっています。



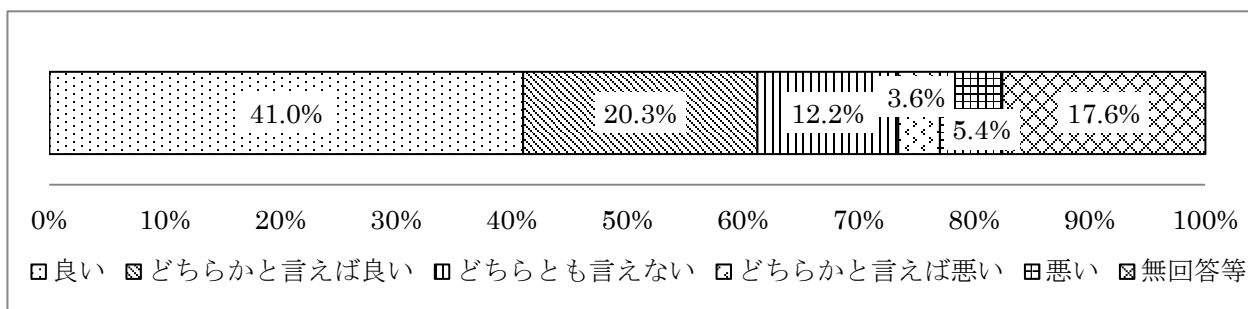
(3) 意見募集の結果

問1 公園の基本計画の内容（ゾーニング、施設など）について、該当するものに
☑（チェック）を付けてください。

（※有効回答とは、全回答のうち、無回答等を除いた回答を指します。）

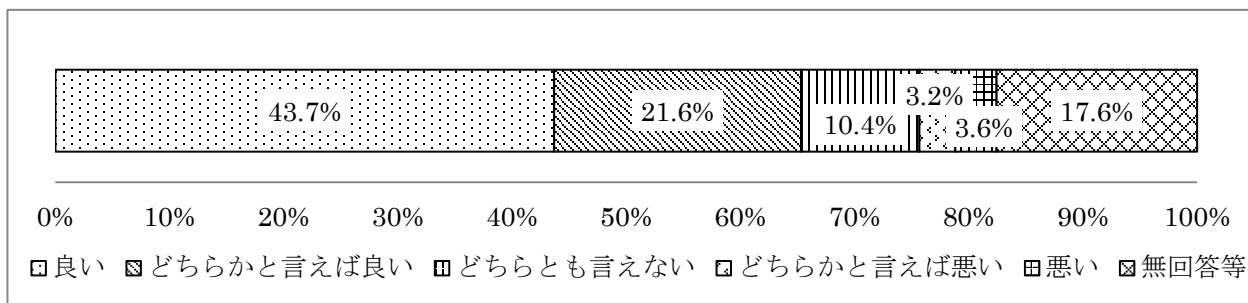
①緑の広場空間創造エリア

緑の広場空間創造エリアの計画内容について、「良い」、または「どちらかと言えば良い」と回答された方が全体の61.3%（有効回答の74.3%、以下同）を占めました。



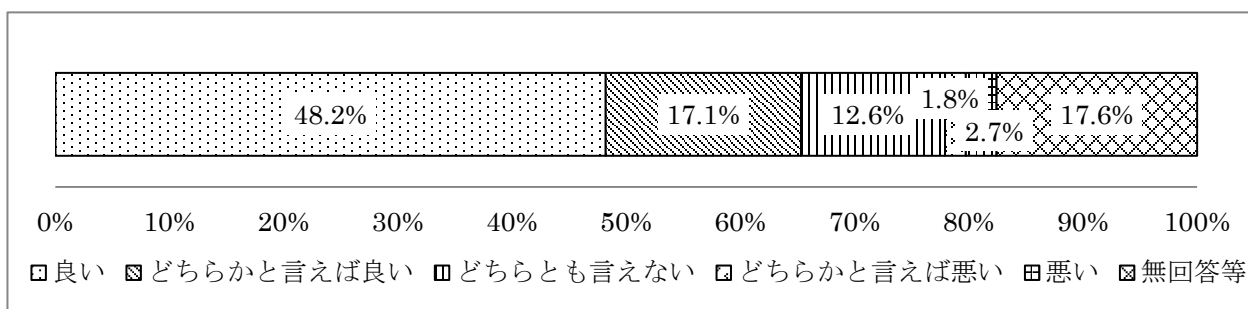
②里山空間再生エリア

里山空間再生エリアの計画内容について、「良い」、または「どちらかと言えば良い」と回答された方が65.3%（同79.2%）を占めました。



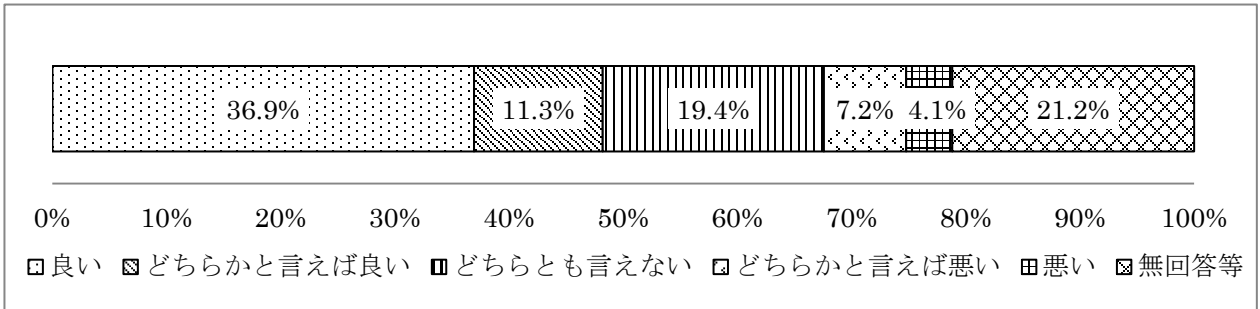
③自然環境保全エリア

自然環境保全エリアの計画内容について、「良い」、または「どちらかと言えば良い」と回答された方が65.3%（同79.3%）を占めました。



④活動・体験・学習エリア

活動・体験・学習エリアの計画内容について、「良い」、または「どちらかと言えば良い」と回答された方が48.2%（同61.2%）を占めました。



主な自由意見

『計画全般について』のご意見としては、「緑や自然環境の保全・創出について（28件）」、「エリア・ゾーニングについて（16件）」、「整備内容全般について（15件）」、「防災機能について（11件）」などのご意見をいただきました。また、『公園施設について』のご意見では「駐車場について（12件）」、「ドッグランについて（12件）」、「農体験施設について（5件）」などのご意見をいただきました。

『その他のご意見』としては、「公園以外の施設利用について（28件）」、「現地見学について（5件）」などのご意見をいただきました。

○回答総数（複数回答含む）

203件

○主なご意見

ー計画全般についてー

【緑や自然環境の保全・創出について（28件）】

・緑地を保全する、できるだけ手を加えない、緑を増やす など

【エリア・ゾーニングについて（16件）】

・自然環境保全エリアを広げてほしい など

【整備内容全般について（15件）】

・自然を生かした公園に、施設は最小限に、良い計画と思う など

【防災機能について（11件）】

・防災機能を充実してほしい など

ー公園施設についてー

【駐車場について（12件）】

・駐車場を増やす など

【ドッグランについて（12件）】

・ドッグランを設置してほしい

【農体験施設について（5件）】

・農体験や水田があるのは良い など

ーその他のご意見ー

【公園以外の施設利用について（28件）】

・墓地をつかってほしい、直売所をつかってほしい など

【現地見学について（5件）】

・現地を見たい など

問2 貯油タンクの処理など主な課題への対応方針についてご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

『貯油タンク等の処理について』に関するご意見として「貯油タンクの利活用について（41件）」に最も多くのご意見をいただいた一方で、「貯油タンクの撤去について（20件）」などのご意見もいただきました。

また、『土壌汚染対策について』では、「処理方法について（19件）」など、『対応方針全体について』として、「安全性への配慮（6件）」などについてのご意見をいただきました。

○回答総数（複数回答含む）

139件

○主なご意見

ー貯油タンク等の処理についてー

【貯油タンクの利活用について（41件）】

- ・歴史的遺構として保全して見学できると良い、災害用の備蓄庫として活用する など

【貯油タンクの撤去について（20件）】

- ・撤去してほしい、地上タンクは撤去してほしい など

ー土壌汚染対策についてー

【処理方法について（19件）】

- ・対策はきちんと行ってほしい、完全に除去してほしい など

ー対応方針全体についてー

【安全性への配慮（6件）】

- ・安全な方法をとってほしい、安全第一に など

(仮称)小柴貯油施設跡地公園 基本計画 最終案

公園種別：広域公園 / 面積：約55.6ha (旧小柴貯油施設と小柴埼緑道の一部などを一体的に整備)

公園計画の基本テーマ

「緑からつくり育む環境体感公園」

森と海に抱かれた自然空間を、市民が憩い、集い、楽しむとともに、みどりアップや生物多様性、地球環境の大切さを、市民が感じ、学び、育てる緑の拠点とします。また、これまでの計画等を踏まえ、「緑」、「環境」、「歴史と景観」の3つのつながりに重点をおいた計画とします。

ゾーニング (右図参照)

現在の地形等をもとに大きく4つのエリアに分けてゾーニングを設定し、エリアごとに整備を進めます。

期	エリア	エリアの考え方	ゾーニング
第1期	緑の広場空間創造エリア (約13.0ha)	平坦な地形を生かした広場を中心とした空間とし、緑花も含めた新たな緑の創造を図ります。また、管理センターや駐車場など管理施設を設置します。	草地広場ゾーン センター広場ゾーン 多目的レクリエーション広場ゾーン 駐車場ゾーン
第2期	里山空間再生エリア (約19.5ha)	柴シーサイドファームに隣接し、ホタルなどが生息する細長い谷戸地形です。生物の生息環境の再生や市民協働による樹林地の保全などを行いながら、農体験もできる里地里山空間の再生を目指します。	小柴埼緑道の一体整備 谷戸空間再生ゾーン 里山農体験ゾーン 展望広場ゾーン
	自然環境保全エリア (約7.5ha)	旧来の樹林地など自然環境の保全を基本とします。	自然環境保全ゾーン
第3期	活動・体験・学習エリア (約15.6ha)	地下タンクなどの処理を行いながら、緑の再生を図るとともに、緑や環境に係る様々な活動や体験、学習の場を目指します。	緑化・環境体験・学習ゾーン タンク広場ゾーン

主な課題への対応方針

貯油タンクの処理

敷地内には大型、小型の地下タンクや地上タンクなどがあり、調査によって安全性を確認しながら次の方向性で具体的な方法を検討します。

- 大型地下タンク：躯体は撤去せず、他の公園緑地工事等で発生した土で埋め戻して、広場等の利用を基本とし、一部を歴史的遺構として保全活用
- 小型地下タンク：躯体は撤去せず、太陽光発電の設置や敷地内の発生土の処理等に活用
- 地上タンク：一部をモニュメントや壁面緑化等の見本園、拠点施設として活用し、残りは撤去

土壌汚染対策

- 国の調査により、タンクや地下トンネル、パイプラインの周辺を中心に鉛等の土壌汚染が確認されており、モニタリング調査を実施しています。
- 土壌汚染対策法等に基づいて、盛土や土の入れ替え、立入禁止などの対策を行い、入れ替えた土は敷地内の地下タンクを活用して処理します。
- 地下水については、モニタリング調査による監視体制を継続します。

防災への配慮

- 広域避難場所を想定して、災害時に活用が可能な広場を確保します。
- かまどベンチや非常用トイレなどを設けるほか、管理センターなどの建物や照明、太陽光発電などの施設が災害時にも活用できるよう工夫します。

動線計画

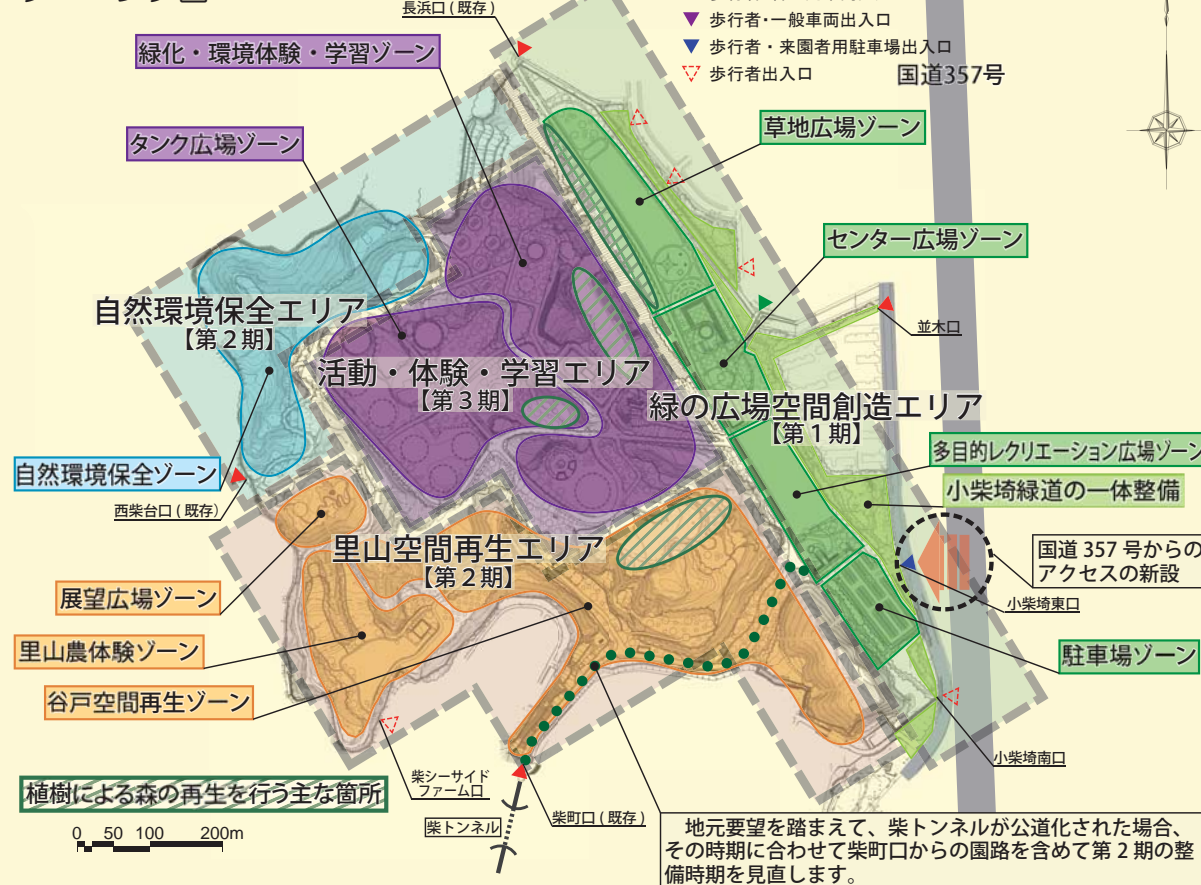
- 一般車両動線として、国道357号から駐車場へと至るアクセスを新設することとし、具体的な位置は、今後、関係機関等と協議していきます。
- 歩行者動線は、既存ゲートを活用するほか、柴シーサイドファーム口などの出入口や、小柴埼緑道と一体利用できる園路を設置します。
- 園路については、通常時の公園利用だけでなく、災害時の利活用や工事期間中の利用者の安全確保等を想定した規模や構造等を検討していきます。

基本計画図

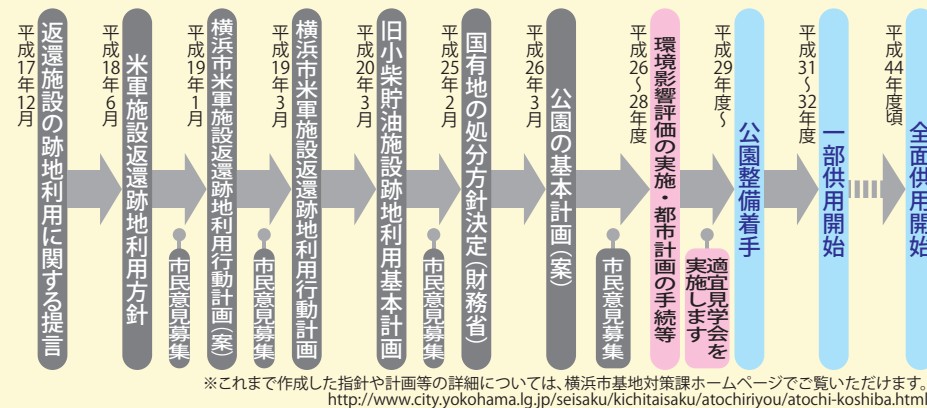


緑の空間創造エリア、活動、体験、学習エリアについて、植樹の際には花木などにより花を楽しめるよう工夫します。公園内の施設では、太陽光発電などの自然エネルギーを活用します。

ゾーニング図



これまでの経緯と今後の進め方 (予定)



想定整備スケジュール

